

令和2年度 第1回 長野市立博物館協議会 議事録

日 時 令和2年12月18日（金）午後2時00分～午後3時30分

場 所 長野市立博物館 2階 会議室

出席委員 立岩会長・宮下副会長・相澤委員・浅倉委員・東福寺委員・二星委員・松原委員

1 開会

2 あいさつ

3 協議事項（議長 立岩会長）

（1）令和2年度事業報告及び令和3年度事業計画

本館 事業報告（細井係長） 事業計画（原田係長） 戸隠（田辺補佐）

信州新町（前澤主査、畠山係長）

・令和2年度事業報告

（立岩会長）「コロナ（新型コロナウイルス）の影響で事業の中止などがあるが、何かあるか。」

（宮下副会長）「コロナ禍の中でよくがんばっていると思う。特別展示（生き仏が信濃にやってきた—念仏行者徳本を迎えた人々—）はけっこう人が入っており、図録も充実していた。信州新町美術館の企画展示（鮎万里絵展—「わたし」たらしめる、わたしの色。）も情報が出てきていた。皆の苦勞が分かった。見学者も遠慮しながらも足を運んでいた。対応に感謝したい。」

（松原委員）「信州新町小学校では、休校となっていたが、2学期から校外活動ができるようになり、信州新町と戸隠の化石館、本館でお世話になった。去年とは違う形で（感染症対策に）配慮をしながら対応していただき、例年と変わらない学習ができた。ありがたい。」

（立岩会長）「皆関心があるから、事業をやれば来るのか。」

（千野館長）「他に行くところがないのもあるかもしれない。特別展示は、我々では最初に入るか疑問をもっていたが、来てくれた。」

（立岩会長）「何かあると、人は動きたくなくなってしまうのかもしれない。」

（相澤委員）「苦勞されていると思う。特別展示は反響があった。情報提供について聞きたい。春、休館ということでホームページに写真をアップしていた。平常時にもよいと思う。家にこもっている中で、良質な情報をどう提供するかだと思う。100円の博物館制作の『川中島の戦い』ガイドブックなどが売れているので、頑張っていたきたい。案内看板については、情報が変わったりして大変だと

思うが、初めて来た人には大切な情報である。どうなっているか。」

(陶山主査)「非常事態宣言時は、来られない人が多いということで、家で楽しめるものを作って提供した。案内看板については、頻りに情報がかわるので、館内のスタッフで手作りしている。また気づいたことがあったら指摘していただきたい。」

(相澤委員)「10月にたまたま徳本展の問い合わせがあったりした。できれば月末に次の月の情報を載せるなどしてはどうか。」

(立岩会長)「よろしく願いしたい。」

(二星委員)「展示の件で、重要文化財銅造観音菩薩立像の展示は延期ではなく中止か。展示の予定はあるか。観たい人は多いと思う。」

(原田係長)「これは毎年行っているが、(コロナ感染拡大を受け)ご所蔵者の意向で中止となった。」

(二星委員)「来年落ち着けば、ということか。」

(原田係長)「そうである。」

(立岩会長)「続けていただければと思う。」

・令和3年度事業計画

(浅倉委員)「2点教えてほしい。1点目は、本館の展示について。春の企画展示「千曲川の魚」で藩主の御前に出す鯉について(説明が)あったが、詳しく知りたい。どこの村が出したかなど。2点目は冬の企画展(災害展(仮))についてで、陸前高田とのコラボレーションについて。これも大変結構な企画と思う。」

(原田係長)「陸前高田が関係する展示は、岩手県立博物館がベースとなっていて、去年も行われたようで、日本博物館協会の紹介で行われることになった。こちら(東日本台風・長野市立博物館)の活動を日本博物館協会がよく知ってくれている。こちらは水損だけであるが、あちら(東日本大震災・岩手県)は塩害がある。ワークショップがあるので、10年前の災害についてももしっかり知ってもらえるようになる。鯉については、私はもともとキジについて調べていたが、文政年間に、求められていた量のキジが献上できず、鯉を出すことになったようだ。水田で育てていたようだが、それも求められた量が献上できず、現金となったようだ。鯉盗みに関する文書もある。生のまま献上しているようで、川合新田や丹波島などが出している。真田(家が松代藩に入る)より前、松平の頃から鯉を献上していると書いてあった。藩に献上していたのか、村との関係を見たい。」

(宮下副会長)「アラム鯉か、アオ鯉か。アラム鯉は捕まえた鯉(天然)で、アオ鯉は養殖。アラム鯉かアオ鯉かで違う。捕まえた鯉は身が薄く、幕末から研究され、養殖されるようになった。松代では、養蚕との関係で(鯉の)養殖が発展し、(蚕の)サナギを鯉の餌にした。」

(原田係長)「河奉行にお叱りを受けたという記録がある。河奉行は松代藩にはなく、検討

が必要。」

(相澤委員)「アラメ鯉は骨だらけで食べづらく、改良された。千曲川では私の祖父の頃にとっていた。」

(立岩会長)「佐久鯉との関係は。」

(相澤委員)「ぜひ、千本幟のことなど紹介してほしい。丹波島宿の見方が変わる。地元では興味を持っており、千曲川を災害の千曲川で終わらせないで、豊かさを紹介したい。春の企画展「千曲川の魚」は面白いので期待している。」

(宮下副会長)「(戸隠でカワシンジュ貝が大量にかみ砕かれ、食べられた跡が見つかり、クマの仕業でないかと仮定して調査をしている。このことについて。) 貝を食べたのは本当にクマか。」

(田辺補佐)「アライグマかつキノワグマと思っている。」

(宮下副会長)「かみ砕かれた数は多いのか。」

(田辺補佐)「多い。」

(宮下副会長)「イワナやサケをとったという記録はあるか。」

(田辺補佐)「ない。」

(宮下副会長)「証明できればすごいことだ。」

(立岩会長)「貝はそんなに多いのか。」

(田辺補佐)「貝はコロニーを作っている。雨が少なかった時に食べるものがなく、食べたのではないか。」

(宮下副会長)「カワシンジュ貝は立っているのでとりやすい。それを利用しているのかもしれない。北海道で(同様の)例はあるか。」

(田辺補佐)「ない。北海道にはサケなどがいる。腹が減っていないと貝に手を出すとは思えない。まだ公表することではないが。」

(2) 報告事項

・中条総合市民センターの開設に伴う展示施設の開館(細井係長)

特になし

・プラネタリウム改修(陶山主査)

(立岩会長)「長野市内ではここにしかプラネタリウムはないのか。」

(陶山主査)「そう。」

(立岩会長)「ここにしかないが(博物館全体の)改修(リニューアル)まで(大がかりな機器の導入)は待つということでは、だいぶ先になるのではないか。」

(千野館長)「台風とコロナで不透明になっている。」

(立岩会長)「投影機は一台いくぐらいするのか。」

(千野館長)「一億くらいである。」

・ミュゼ蔵の休館と今後(成田係長)

特になし

・特別展示室耐震改修（中野補佐）

特になし

・文化財レスキュー（原田係長）

特になし

・佐久市所蔵の旧佐藤博物館収蔵資料の長期借用（原田係長）

特になし

・公共施設マネジメント個別施設計画（田辺補佐）

（浅倉委員）「真田宝物館と象山記念館についてなど、どうなるか詳しく教えてほしい。」

（千野館長）「真田宝物館と象山記念館は文化財課（の所管）だが、わかる限りで説明する。

真田宝物館と象山記念館は老朽化が進んでおり、象山記念館を廃止して、真田宝物館に集約化、改修するという案だと思う。」

（浅倉委員）「休憩所とは何か。」

（原田係長）「隣の食堂のことである。」

（浅倉委員）「そこも（管轄とは）驚きだ。文化財等保存施設とは何か。」

（千野館長）「分からず、申し訳ない。（記述の）ミスかもしれない。」（※後日、文化財課所管の小田切収蔵庫と判明した。）

・博物館リニューアル（千野館長）

（相澤委員）「公園緑地課と検討しているところだと思う。地元にもそちらから情報がきているので協力したい。」

（3）その他（全体について）

（相澤委員）「令和3年度の計画に調査研究会とある。毎年あるが、どんなことをやっているか教えてほしい。」

（原田係長）「今年度は中学校や高校の教科書と常設展示を照らし合わせ、いかに歴史が変わったか、常設展示が現在の見識とかけ離れているかを検討した。具体的には、『赤い土器のクニ』とは、といったことである。縦割りにならないように、全員に教科書を配り、現在学校でどのように教えられているか、それと博物館の展示に齟齬があるかを見た。担当、担当といってしまうのはよくないため、そのようなことをした。」

（相澤委員）「小学校3年生の教科書に、博物館を使う単元がある。松原先生の学校（信州新町小学校）で体験などをしていただいたが、学校側としてはどうか。」

（松原委員）「体験的なところがあるのが（博物館の）良いところだと思う。3年生くらいだと、見るだけでは難しい。体験ができると良い。」

4 閉会